



穆氏樂論

三

ヤ 5
1034
3



75
1034
3

穆氏藥論初編目次

卷之三

乳酸

擒酸

阿芙蓉酸

消鹽酸

鹽酸

格魯林

消酸

蓆酸

○格魯林水

○發烟消酸

○蓆酸加里



穆氏藥論

標目

清力堂藏

傑列乙酸

磷酸

水酸

焦臭酒石酸

琥珀酸

硫酸

酒石酸

垂格尼室涅

雙鸞菊

○收飲亞的兒 ○越栗失爾赫篤立沃利
○底電愈創水 ○酸收玫瑰丁幾

○里沒奈埤散 ○純精酒石
○透晶水



穆氏藥論卷之三

美濃

江馬修士得譯

男聖欽正人 校

乳酸 アシダクチス

一千八百年ニ失計列人之ヲ發明シ一千八百十

三年ニ蒲刺昆諾篤人ナシセルシル諸植物ノ

成ル者ナルヲ審定シ噶乙律撒屈人及ヒ伯魯

鳥設人ノ説ニモ亦ナシセルト全ク同物

ナリト云

主治乳汁ヨリ製スル所ノ乳酸ハ消化機ヲ扶ク
ル効アリ故ニ麻健實名ハ飲食不化及ヒ胃弱症
ニ之ヲ里没奈埵狀ニ製シ或ハ錠トシ用フ又燐
酸加爾幾ヲ速ニ溶解スルカ故ニ膀胱結石ニ良
驗アリト云

○膀胱結石ヲ治ス

乳酸一錢ヨリ四 水八号

舍利別二錢

右調和シ每服一食匙一時若ハ一時半毎二用フ
○前症ヲ治ス

料

乳酸二錢

砂糖一号

華尼利油四滴

達刺侃篤適宜

右研和シ半錢ノ錠トシ每服一個ヨリ二個ニ至
ル日ニ二三回

擒酸アシゲムマリキニ

一千八百十八年ニ度奈般名ハ創テ之ヲ製ス總テ
酸味ノ諸菓ニ之ヲ含有ス尚今日マテ醫藥ニ供
スルヲナシ藥局ニ於テ唯擒酸鐵ヲ製スルニ之
ヲ用フルノミ

阿芙蓉酸

アシヂウム、メコニキウム
メコニウム、シニール

主治 阿芙蓉ノ一成分ナリ設ルナ兒去爾ルナ涅兒ルナノ説

ニ此酸大毒劑ニノ痊搐呼吸短促消削病ヲ起ス

然レ凡條蟲ヲ驅逐スル効アリト云此説誤ナリ歇

諾ハ及里阿オ名ハ之ヲ獸ニ試用シ數ハニ至ルト雖

凡毫毛其害ヲ見ス又條蟲ヲ患フルニ婦人ニメ

コナスソーダヲ用ヒテ四ハニ至ルニ其効ナシ

ト云是ニ由テ今日マデ醫藥ニ供スルナシ

消鹽酸

アシヂウム、ミユリアチコ、ニトリキウム
カルペートリソウトシニール

*

主治 鹽酸ノ如ク水ヲ加ヘ稀クシ内服ニ供ス肝

病慢性皮膚病。微毒ニ効アリ然レ凡歇ハ奴斯ス及

ヒ斯ス格篤ト名ノ説ニ之ヲ内用スレバ大胃弱ヲ貽

スガ故ニ外用ヲ勝レリト云是ニ由テ唯洗劑。全

身浴。半身浴ニ用フルノミ

余ハ全身浴ニハ先鹽酸ニ多ヲ注キ次ニ消酸一

多ヲ加ヘ能ク攪和ス此浴湯ハ往昔消鹽酸ヲ内

用セシ所ノ諸症及ヒ痛風ニ良驗アリ但シ肝病

ニハ之ヲ脚湯ニ用フルヲ宜シトス一次ニ鹽酸

一多消酸半多ヲ注加シ七日毎ニ二三ハ次之ヲ施

スベシ

穆連歇ハ謨名人ハ消鹽酸ニ水ヲ加ヘ稀クシ毒

潰瘍ニ養劑トシ良驗アリト云又局處痛風ニ効

アリ扶氏醫事日記
ニ見ヘタリ

鹽酸アシゲムハ、ミユリアチキユム

主治尋常ノ鹽酸ハ他ノ鑛酸ニ比スレハ揮發ナ
リ故ニ多量ニ之ヲ用フレバ酩酊メ眩暈ヲ發ス
巧手ハ惡性神經熱ニ稱用ス適度ニ之ヲ用フレ
バ胃及ヒ全身ニ適宜ノ温氣ヲ生シ血中ニ新活

✳

潑氣ヲ與ヘ其脈ヲ發揚シ汗及ヒ小便分泌ヲ增
進スルナリ

又左ノ諸症ニ稱用ス其効他ノ諸酸ニ勝レリ

第一焮衝熱變メ神經熱若ハ惡性熱トナル症ニ

良効アリ但シ腸胃汚物ノ徵アル者ニハ用フベ

カラズ

第二弗蘭屈名人ハ神經熱ニ於テ肌熱燒カ如ク大

煩躁其脈不齊之ヲ按メ蟄伏シ易ク面頰俄ニ變

シ或ハ紅色トナリ或ハ蒼白トナリ血脈神經俱

ニ動機旺盛シ諸症發歇往來變動シ易キ症ニ稱

用ス

第三腐敗熱ニ覺機遲鈍。昏睡。沉静ナル精神錯亂
及ヒ諸虛候ヲ兼發スル症ニ良効アリ

○扶歇蘭度名ル人乙兒名ル人格兒名ル人去謨名ル人ハ右ノ諸症

ニ左ノ方ヲ稱用ス

鹽酸ニ錢

蒸餾水四勺

舍利別ニ勺

右調和シ一時毎二一食匙燕麥煎汁一小椀ヲ以
テ服ス

第四傳染疫及ヒ神經熱殊ニ血液鬱積ヲ兼ル症

ニ効アリ又腸胃性神經熱ノ第二期及ヒ發疹熱。

勞瘵熱溶崩汗ヲ兼ル症ニ良劑ナリ又痛風結石胃病肝

病門脈病慢性神經病癩癩液質變性諸病殊ニ汎

發黴毒慢性皮膚病ニ良驗アリ

扶歇蘭度名ル人ハ慢性癬瘡疥瘡及ヒ液質變性ヨリ

發スル脚瘍ニ消酸ヲ稱用ス然レ余ハ此症ニ鹽

酸ヲ用ヒテ良驗ヲ得タリ

又肝病黃疸ヲ兼發スル症後ノ慢性發疹。汞病。療瘵ニ効アリ

リ之ヲ他藥ニ混和スレハ小兒ト又胃腸粘液漏

粘液性淋病。泌尿器ノ結石磷酸加爾幾小腸諸病

焮衝ヲ兼發
セザル者ヲ治ス

涅烏滿名ノ説ニ鹽酸ハ他ノ諸酸ノ如ク齒牙ヲ

害セズ且鹽酸一錢ニ水六多ヲ加ヘ稀クメ用フ

レバ胃ヲ害スルヲナク且胃腸ノ粘膜ニ殊効ヲ

致ス是レ他ノ諸酸ニ勝ル所以ナリ扶堙滿名ノ

説ニ胃液ハ醋酸ト鹽酸ヨリ成ル故ニ鹽酸ト能

ク親和スルヲ以テ胃ヲ害セザルナラント云

熱病ニ下利ヲ兼ル症ニハ之ヲ禁ス總テ溶崩症

殊ニ溶崩汗ヲ兼ル症ニ之ヲ用フベシ又熱性皮

膚病殊ニ稠密痘ニ劇烈咽喉焮衝ヲ兼發スル症

ニ良効アリ
間歇熱ニ鹽酸ヲ幾那煎ニ配用スレバ最効多シ

之ヲ加ヘザレバ幾那ニ含有スル所ノ亞爾加羅

乙甸イ甸分解セザルガ故ニ其効少シ

又鉛毒疝ニ無ニノ良劑ナリ又慢性ノ諸失血ニ

良効アリ

服量内服ニ稀鹽酸ヲ最良トス每服十滴ヨリニ

十五滴ニ至ル舍利別若ハ燕麥煎汁若ハ多量ノ

水ニ和シ一時若ハ一時半毎ニ用フ

外用口内腐爛及ヒ惡性咽喉焮衝ニ之ヲ舍利別

ニ和シ含漱劑トシ。頭瘡ニ之ヲ洗劑トシ。水癌。病院壞疽ニ之ヲ腐蝕劑トス。若シ其効ヲ緩ニセんと欲セバ鹽酸一錢ヲ家猪脂一弓ニ研和シ貼スルヲ宜シトス

○口内腐爛及ヒ惡性咽喉燉衝ヲ治ス

鹽酸 二錢 桑椹舍利別 一弓半 或二弓

右調和シ筆ヲ以テ患處ニ塗ル

又慢性失血。小兒驚口瘡及ヒ發疹熱。勞瘵熱ニ兼發スル驚口瘡ニ外用メ偉効アリ

○小兒驚口瘡及ヒ初生兒ノ臂若ハ背ニ發スル



驚口瘡狀ノ疹ヲ治ス

鹽酸 一錢 覆盆子舍利別 六錢

右調和シ患處ニ塗ル

格魯林 コ
ア
シ
ダ
ユ
ム
シ
ユ
リ
ア
チ
キ
ユ
ム
オ
キ
セ
ー
ゲ
ナ
チ
ユ
ム
コ
ロ
ー
ル

主治 格魯林瓦斯ニ水適宜ニ加ヘ飽和セシメ器

ニ入レ温湯ヲ混和シ肺勞ノ病者ニ吸入セシム

ル一日ニ二度ヨリ四度ニ至ル初ハ五滴ヨリ八

滴漸ク増メ二十五滴ニ至ル

又海鹽酸化滿掩。硫酸ヲ以テ瓦斯ヲ製シ之ヲ病

室中ニ薰蒸スル法アリ然レ其前法ニ比スレバ肺
 ヲ刺衝スル一劇シキガ故ニ宜シカラズ或ハ此
 法ヲ結核肺勞ニ數月間續用メ良驗ヲ得ルト云
 者アリ或ハ害アリト云者アリ故ニ其試驗未タ
 確實ナラス然レ其觸覺穎敏ノ者ニ害アル一必然
 タリ是ヲ以テ余ハ少年ノ結核肺勞ニ之ヲ施ス
 一ナシ唯老年ニノ觸覺遲鈍ナル人ノ粘液勞ニ
 之ヲ施スノミ

又硫水素瓦斯ニ中リテ昏冒若ハ卒厥スル者ニ
 格魯林瓦斯ヲ小鉢ニ入レ之ヲ口鼻ニ接シ吸入

セシムレバ速ニ醒覺ス

○格魯林水 アタクハオキセーニリアチカ
アルーイバーレコロル

主治 格魯林瓦斯ヲ水ニ溶化スル者ナリ諸家ノ

說ニ從ヒ鹽酸ト同シク内服ニ供ス且鹽酸ノ條
 ニ舉ル所ノ諸症ニ之ヲ稱用ス然レ其効稍緩ナ
 リ且其香味不佳ニメ小兒ニ用ヒ難シ故ニ内服
 ニハ鹽酸ヲ宜シトス又之ヲ外用メ驚口瘡ニ効
 アル一鹽酸ニ同シ但傳染毒ヲ消除スル為メ洗
 劑ニハ鹽酸ヲ勝レリトス
 又諸惡臭ヲ除去スル効アリ又此氣ヲ以テ薰ス

レバ傳染毒ヲ含有スル大氣ヲ清淨ニシ且ッ衣服
等ニ汚染スル傳染毒ヲ脱除スル効アリ

格魯林
法ノ

涅烏滿名ハ疫毒ヲ預防スル良劑トス又急性胃

腸軟脆及ヒ呼吸惡臭ヲ治ス

格魯林水ニ錢覆盆
子水三ヲ二調和シ

用フ又靑酸毒ニ中ル者ヲ治ス但此症ニハ礪砂

加亞泥子精或ハ礪砂加石灰精ヲ勝レリトス

格魯林水ハ速ニ腐敗スルカ故ニ經久ノ者ハ用

フベカラズ且大氣及ヒ光氣ニ觸レシムル一勿

動機旺盛ノ諸熱病發疹熱ヲ治ス又小兒猩紅斑

ニ頭腦諸患及ヒ覺機穎敏ヲ兼ル症ニ効アリ又

神經性焮衝熱將ニ底彪斯ニ變ヒトスル徵ア

リテ其熱燒ガ如ク黯赭色ノ疹ヲ發シ呼吸惡臭

且頭腦ヲ劇ク侵襲スル症ニ良驗アリ

小兒生齒ノ時ニ發スル焮衝熱ニ無ニノ良劑ナ

リ殊ニ其熱劇盛皮膚及ヒ頰紅色大煩躁血液頭

腦へ湊積スル症ニ最良効アリ

格魯林
名ノ説ニ右

症ニ之ヲ用フレバ當ニ其熱ヲ鎮靖スルノ奇効

アルノミナフス又危險ノ諸症ヲ防治シ且病毒

排泄機ヲメ分泌諸器皮表粘膜。腎。唾腺等。ニ向ハシム又口内及ヒ咽喉喉衝ニ驚口瘡ヲ兼發スル症ニ之ヲ用フレバ則チ飲用ノ時直ニ其部ニ觸ル、ガ故ニ能ク之ヲ除治スト云

右ニ舉ル兼熱諸病ニ下利ヲ併發スル者ハ之ヲ沙列布煎ニ和シ用フベシ

〔服量用法〕每服半錢ヨリ三錢ニ至ル水ヲ加ヘ稀クシ速ニ飲用スベシ是ニ由テ瓦斯溶解スト雖凡肺ヲ刺衝スルコトナシ

○一歳ヨリ四歳十歳マデノ小兒ニ左方ヲ最良

トス

格魯林水 一 弓

蒸餾水 三 弓

舍利別 一 弓

右調和シ半時毎ニ半食匙ヨリ一食匙ヲ用フ又慢性蕁麻疹羅斯頭癬ホルリヨ病名徽毒癩疾及肝ノ血液鬱積ニ之ヲ内外俱ニ用ヒテ良驗アリ又猩紅斑ニ純格魯林水ヲ洗劑トス

消酸 アシガム、ニトリキニム、サルペートルシユール

主治 侵蝕劑ナリ若シ多量ニ服スレバ壞疽ヲ發

*

ノ死ス其効硫酸又ヒ鹽酸ニ同シト雖凡然凡硫
 酸ノ強壯カヲ有セス鹽酸ノ刺衝カナシ但此酸
 ハ腺水脈肝脾腎ニ刺衝ノ殊効ヲ致ス_一甘汞
 ニ同シ之ニ多量ノ水ヲ加ヘ鹽酸ノ條ニ舉ル所
 ノ急性慢性諸病ニ稱用ス鹽酸ノ條ヲ參者スベシ余ハ此諸
 症ニ格魯林水ヲ勝レリトス然凡慢性肝病ニ黃
 疸ヲ兼ル症及ヒ病院壞疽ニハ稀消酸五滴ヨリ
 十滴二十滴マデヲ燕麥煎汁一小碗ニ加ヘ日ニ
 二三次用ヒテ良驗ヲ得タリ
 涅烏滿名ノ說ニ消酸ハ能ク徽毒ヲ治スト云者

アリト雖凡之ヲ試用スルニ全ク効ナシ故ニ内
 用ニ供スル_一ナシト云

福弗篤名ノ說ニ印度ニ於テハ虎狼痢ニ之ヲ稱

用ス格倫勃煎汁挂水又徽毒。泌尿器結石。瘰癧。膿

質惡液病ニ良効アリ之ニ亞爾箇兒那布答阿芙

蓉及ヒ香竄品ヲ加用スレバ能ク消化スルガ故

ニ最良ナリト云

外用凍瘡ヲ治ス之ニ桂水等分ヲ和シ外敷ス

○發烟消酸アシゲニトロクニトリキニム

主治諾必都名ノ說ニ底彪私病ニ之ヲ引赤劑誘

導劑ニ用ヒテ良驗アリ即心下ニ手掌ノ大ニ之ヲ塗擦スベシト云又虚性潰瘍慢性皮膚病經久

凍瘡骨節腫ヲ治ス之ヲ孕酸膏トシ貼スベシ

○孕酸膏 ヲングエンチムオキセーゲナチム

發烟消酸 錢半ヨリ一家猪脂一ヲ

右研和ス燹爾及局方ニハ酸一分脂十六分トス

律斯篤名ハ此酸一ヲ水八比ニ和シ骨節腫ニ

蒸劑トシ偉効アリト云

廿

蓐酸 アシゲムオキサリクム

○蓐酸加里

「シユベルオキサラスポットアス」
「シユーリンダグシユール」
「ホットアス」

此二品俱ニ大毒劑ナリ若シ多量ニ之ヲ服スレ

バ胃粘膜ヲ侵襲メ死ヲ致ス砒石外永ヨリモ

速ナリ稀釋スル者ハ吸收スル最速ナルカ故

ニ神經ヲ麻痺メ死ヲ致スモ亦速ナリ此毒ニ中

ル者ハ大腹痛惡心嘔吐昏冒搐掣ヲ發ス

此毒ヲ解スル者ハ新製石灰水麻屈涅失垂過爾

拔結麗土末ヲ最良トス或書ニ之ヲ酒石酸ト同

効ノ者ナリト云大ナル誤ナリ

傑列^ガヒ酸^アシヂウムペクチキウム

蒲刺^ハ公諾^コ篤^ト名^ノ初^ハメ蕪^ウ菁^セ馬鈴^マ薯^シ當歸^{トウ}等^トニ此^ノ酸^ヲ

含^ムヲ發明^シ其^ノ後^ニ總^テ巨^大ノ根^ベン等^ヲ諸

樹^ノ皮^ノ諸^ノ子^ノ實^ニ亦^チ之^ヲ有^スルヲ發明^ス此^ノ酸^ハ無

色^ニノ味^酸ク勒^テ佉^母斯^紙ヲ紅^色ニ染^ム總^テ傑

列^ヒト名^クル者^ト同^質ナリ之^ニ亞^兒箇^爾酸^類

消^石ヲ加^フル寸^ハ黑^色透^亮ノ傑^列ヒトナル

蒲^刺昆^諾篤^名ハ之^ニ枸^櫞汗^及ヒ砂^糖ヲ加^ヘ傑

列^ヒ狀^ノ里^没奈^堊ヲ製^シ熱^病ニ稱^用シ又^銅鹽

劑^鉛鹽^劑亞^鉛鹽^劑安^質没^尼鹽^劑汞^鹽劑^等ノ中

毒^ニ良^劑トス但^シ外^汞吐^酒石^消酸^銀ノ中^毒ニ
ハ効^ナシト云

磷^酸 ^アシヂウム^ホス^ホリ^クム

主^治大^抵硫^酸ニ同^シ然^レモ稍^緩ナリ

服^量純^粹者^毎服^十滴^{ヨリ}三十^滴ニ至^ル日^ニ三

次

○腐^骨疽^ヲ治^ス

阿^魏 磷^酸乾^固者

亞^爾答^根 未^各二^錢

右研和シニ凡ノ丸トシ每服三丸ヨリ四丸ニ至ル日ニ三次

舜堙林名人ハ遺精歇イ斯的里肺勞諸失血ニ之ヲ

稱用シ又淫情ヲ催起スル効アリト云然凡余ハ

涅烏滿名人ノ説ニ從ヒ之ニ代ルニ發烟鹽酸ヲ以

テス其効大ニ燐酸ニ勝レリ

＊

木醋アシヂユム、ペーロリグノシユム

主治アシヂユム、ペーロリグノシユム燮爾列斯名人ノ試驗説ニ其効カハ之ニ混和

セル所ノ炎百列烏未安息香酸ノニ在リ故ニ揮

發神經劑ニメ鎮痙ノ効アリト云

服量每服五滴ヨリ十五滴ニ至ル日ニ三四次粘

滑ナル飲液ヲ以テ用フ

○小兒胃腸軟脆ヲ治ス

木醋一錢 橙花水ニテ

甘扁桃舍利別一テ

右調和シ半時毎ニ半食匙ヲ用フ

扶歇蘭度名人醫事日記ニ之ヲ腐敗熱及ヒ子宮軟

脆ニ稱用ス

木醋ヲ多量ニ服スレバ大毒劑ナリ之ヲ服スル

一錢ニメ煩悶眩暈手足振掉搐掣ヲ發スル者
アリ此消毒劑ニハ吐劑油質劑酒石鹽阿芙蓉ヲ
宜トス

外用弛緩性潰瘍水癌ヲ治ス又壞疽ノ一良藥ナ
リ速ニ其惡臭ヲ去リ廢液ノ釀成及ヒ其吸收ヲ
防止ス余之ヲ撒絲ニ浸シ患處ニ敷貼スルヲ三
日ニメ屍臭去リ腐肉脫除シ赤色乳頭狀トナル
者ヲ見ル又壞疽狀破爛手足乾壞疽口内腐爛惡
性咽喉焮衝汞毒咽喉焮衝ニ良驗アリ總テ之ヲ
外敷スルニ初メ一二次ハ純木醋ヲ用ヒ次ニ其

辣痛ヲ減スル為ニ稀木醋木醋一分ニ水四分若ハ八分ヲ和スル者

ヲ用フルヲ宜トス

又耳聾ニ膿ヲ洩ス者稀木醋ヲ注射シ又猩紅斑
ニ惡性咽喉焮衝ヲ兼ル症ニ含漱劑トシ又子宮
癌ニ之ヲ注射シ能ク其惡臭ヲ除去ス又壞疽狀
凍瘡ニ蒸濕劑トシ又頭瘡老人壞疽狀腫瘍癌瘡
等ニ外用メ良効アリ

*(○)含漱劑

再製木醋 半ヲ 桂水 四ヲ

桑椹舍利別 二ヲ

右調和シ硝子燬ニ入レ黒紙ヲ以テ之ヲ覆フ

○壞疽ヲ治ス

泥菖根浸劑

根ニ錢水六ヲ以テ浸出シ濾過ス

木醋 一升

加密列舍利別 半升

右調和シ半匙毎二一食匙ヨリ一食匙半ニ至ルヲ服ス

★○水癌ヲ治ス

木醋 一錢半

玫瑰蜜 一升

右調和シ患處ニ塗ル

○耳聾惡臭膿ヲ洩ス者ヲ治ス

木醋

的列並油

福弗滿鎮痛液

各半錢

右調和シ毎夕二滴ヲ耳中ニ滴ス

○汚穢潰瘍ヲ治ス

麥糠 半升

亞麻仁 末一升

木醋 適宜

右研和シ琶布トス

★○齒齦腐爛惡臭アル者ヲ治ス

木醋

菩提樹炭 末各一錢

桂丁幾 二錢

玫瑰蜜 一升半

右調和シ患處ニ塗ル

○子宮癌ヲ治ス

木醋 一分 水 八分

右合和シ注射劑トス

再製木醋ハ唯内用ニ供スルノミ密封メ之ヲ貯
ヘザレバ其効力ヲ脱ス尋常木醋モ亦然リ動モ
スレバ水ニ醋ト鹿角油ヲ加ヘ真木醋ニ偽リ鬻
ク者アリ

十

焦臭酒石酸 アシヂウムペーロタルトリキユム
アウンヂクウエインステーションシユール

主治 往昔ハ之ヲ起熱發汗劑トシ每服二十滴ヨ

リ三十滴マデ温茶ヲ以テ用ヒ或ハ酒石精ト同
物トシ或ハ左ノ如ク配用ス

○瘰癧質性聖京屈ヲ治ス

焦臭酒石酸 四ヨ 複方白芷精 六ヨ白芷ノ
條ニ出ス

硫酸 半ヨ

右調和ス

余ハ右症ニハ左方ヲ稱用ス

○發汗劑

福弗滿鎮痛液

鹿琥精 各等分

右調和シ接骨木花浸劑ヲ以テ用フ或ハ民埜列里精ヲ用フルモ亦宜トス

琥珀酸 アリンヂウム、シユツシニキユム

主治 一種ノ按爾撒謨劑ニノ其性安息香ニ同シ

其質炎百列烏麻 安息香酸ノヲ含有スルガ故ニ

古人之ヲ強神經奮起鎮痙劑トシ葛斯篤儂謨

砂揮發華麝香ヲ用フベキ諸症ニ良驗アリト云

服量 每服五ルヨリ十ルニ至ル溶劑トス

○溶劑方

※

琥珀酸 半錢

桂水 重爾箇兒ヲ加ハ

桂舍利別 半ヲ

右溶和シ半時毎ニ半食匙ヨリ一食匙ヲ服ス

又散劑若ハ丸劑トシ或ハ麝香葛斯篤儂謨阿美

蓉ニ配用ス

往昔ハ老人ノ壞疽 痛ヲ兼 痛風毒及ヒ儂麻質毒

ノ轉徙經閉等ニ之ヲ稱用ス撒屈 人名ノ説ニ急性

熱病大衰弱ヲ兼ル症ニ良驗アリト云又此酸ハ

蒸發氣及ヒ泌尿器ニ強ク其効ヲ致スガ故ニ皮

疹熱毒或ハ脚痛毒胃ニ轉徙ノ危險ノ症ヲ發ス

ル者ニ必用ノ藥ナリト云然^レ凡^レ尚精密ニ試験セ
ス^レハアルベカラス

此酸ニ礪砂加石灰精ヲ加^ヘ鹿^ノ精^ノ或ハ福弗滿^ノ

鎮痛液等分ヲ加^ヘ風^ノ類^ノ用^フ俱ニ最良ノ

鎮痙劑ナリ

硫酸 アジジウム、シユルピユリクム
スワフルシユール

○稀硫酸 アジジウム、シユルピユリクム、ゲリユチユム
フルジュンデスワフルシユール

硫酸 一分 水 五分

右調和シ毎服十五滴ヨリ二十滴ニ至ル水若^クハ



粘漿一小碗ヲ以テ服ス

主治性收斂ニシテ強壯ノ効アリ消酸ニ比スレハ

消化機ヲ妨クル^{コト}少シ故ニ長ク續用スト雖^モ凡^レ

害ナシ内服ニハ總テ稀硫酸ヲ宜シトス

虛性膽液熱腸胃熱ヲ治ス又^レ焮衝熱皮膚熱メ燒

カ如ク大渴ヲ兼ル者ニ最良ナリ但腸胃汚物或

ハ局處焮衝ノ徵アル者ハ之ヲ禁ス又腐敗熱及

ニ腸胃熱ヨリ轉シ來ル腐敗熱ニ血液沸騰或ハ

脱汗ヲ兼ル者ニ偉効アリ

猩紅斑ニハ格魯林水ノ効硫酸ニ勝レリトス又

麻疹ハ大抵焮衝狀ノ肺患ヲ兼ルガ故ニ之ヲ禁
ス又肝脾膨脹。大胃弱症。熱性皮膚病ニ之ヲ用フ
ベカラズ

諸熱病。硫酸的應ノ症ト雖凡腸胃汚物アル者ハ
先吐下劑ヲ以テ之ヲ滌除シ而後ニ用フベシ否
ザレバ胃痛。暴下ヲ發シ大衰弱ヲ致スヲ以テナ
リ

★○振揚譫妄ヲ治ス

稀硫酸

葛爾儒斃カール溼實屈バ越幾斯ク

睡菜越幾斯 各一錢

高答カキ幾里リス松把水パ 六分

右調和シ每服半食匕冷水一小碗ヲ以テ用フル
一日ニ三四次

外用 溼烏ウ滿マ名ハ贅肉ノ增生ヲ防治スルニ再留

硫酸ヲ稱用シ之ヲ以テ腐蝕シ全ク消除スル者
ヲ見ルト云

○骨節病ヲ治ス

硫酸 半分

家猪脂 一分半

右研和シ外敷スレバ刺衝誘導ノ効アリ

○頭瘡ヲ治ス

硫酸 一分

家猪脂 八分

右研和シ塗敷ス

○收斂亜的児ヨリキシルアシヂウムバルレリ

硫酸一分 亞爾簡児三分

右調和ス

〔服量〕每服十滴ヨリ十五滴ニ至ル水若ハ粘漿一

小碗ヲ以テ用フ

〔主治〕神經熱ニ血液沸騰。血脈神經ノ動機旺盛。劇

烈肌熱ヲ兼ル症ヲ治ス又總テ蒸氣過泄腸胃汚

ナク舌苔ヲ治スルノ効。稀硫酸ニ勝レリ是レ硫

酸ニ比スレバ皮表ニ多ク其効ヲ致スヲ以テナ

リ又勞瘵ノ溶崩汗ニ姑息ノ良劑ナリ

又間歇熱ヲ治ス之ニ舍利別ト水ヲ加ヘ發熱中

ニ用ヒテ偉効アリ又發烟鹽酸ヲ間日ニ每服二

十滴ヨリ二十五滴マデ日ニ三度用ヒテ全治ス

ル者ヲ屢經驗ス

近來痺麻質痛ニ之ヲ外用ス即水三分若ハ六分

ヲ加ヘ綿ニ浸シ之ヲ痛處ニ貼シ其部燒クカ如

キヲ覺ヘ赤色トナルニ至ル又痺麻質性齧齒痛

ニハ之ヲ頰ニ塗リ其部熱シテ燒クカ如キヲ覺

ヘ赤色トナル寸ハ其痛轉移ス

又虛性熱病。變形間歇熱。惡性間歇熱。ニ之ヲ以テ
胸腹ヲ洗フ寸ハ則刺衝誘導ノ効アリテ其部ニ
粟疹狀ノ者ヲ發ス

○越栗失爾赫篤立沃利「チンクチュラ、アシダ、アロ
マチカ」「エリキシル、ア
シヂム、アロマチキム」

右ノ方新古其製ヲ異ニスト雖凡余カ經驗スル
所ヲ以テ見レバ古方ノ効新方ニ勝レリトス
布魯乙私局方

硫酸 一分
香竈丁幾 十二分
丁香条ニ出ス
右調和ス

斃爾及局方新方

收欽亞的兒四 燒酒二十度者

桂 薑各半

右硝子壘ニ入レ固封シ冷處ニ浸ス一八日

蔑印失屈篤名方古方

泥菖根 一弓 良薑 一弓半

薑 三錢 面答幾里斯把葉

撒爾非亞葉各半 丁香

桂各三錢 枸櫞皮

肉豆蔻 葦澄茄各二錢

右細^カ二割^カ之硫酸三^多亜^{アル}爾^コ箇^ル兒^ニ二十四^多ヲ加^ヘ浸ス^一八日ニ^ノ砂糖四^多ヲ加^ヘ濾過ス

主治 依^イ剥^ボ昆^コ垚^テ兒^ルニ消化機衰弱其他胃諸患ヲ兼ル者ヲ治ス

服量 二十五滴ヨリ三十滴ニ至ル冷水若ハ赤葡萄酒ヲ以テ用フ

○底電愈創水 アクア、ビュル子ラリア、テエデニ
アードン スウランドワートル

醋 三^北
亜^{アル}爾^コ箇^ル兒^ニ一^北半
蜂蜜 一^北泡^ヲ去^ル者
稀硫酸 半^北
右調和ス

主治 打撲傷又ヒ創傷ニ由テ血液皮下ニ泛溢スル者。腐敗性潰瘍惡臭アル者等ニ外用メ良効アリ又痺麻質痛ニ外用シ其効收斂^亞的兒ニ勝^レリ

○酸收玫瑰^丁幾 チンクチュラ、ロサリウム、アシゲユラ
硫酸 一^分
玫瑰水 二十五^分

右調和ス
主治 口内腐爛及ヒ鷺口瘡等ニ之ヲ含漱劑トシ

良驗アリ

酒石酸

アインデナムタルタリキユム
「アインステンションユール」

一千七百六十九年ニ失計列人之ヲ創製ス凡ノ

植酸中單用ノ害ヲ為ス此酸ヨリ甚シキハナシ

或ハ胃ヲ害シ消化機ヲ衰弱セシメ或ハ下利胃

痊嘔吐大頭痛等ヲ起ス溼烏滿名ノ説ニ多量ニ

之ヲ用フレバ死ヲ致ス一蓆酸ニ同ント云又醋

酸拘酸ベルベリ酸擒酸モ多量ニ用フレバ害ヲ

為ス一酒石酸ニ同シ

速斃倫歇乙謨名ノ説ニ此酸ハ消化機ヲ衰弱セ

シノ疝痛胃痊等ヲ起ス故ニ胃弱及ヒ下利ヲ兼

ル症ニ用フベカラスト云

撒屈斯名ハ此酸ノ有害ヲ著サス且之ヲ醫藥ニ

供セス唯日常飲料ニ供スルノミ誤レリト謂ツ

ベン

主治 往昔ハ焮衝性淋瀝焮衝性水腫多血男ノ痔

疾膽液病等ニ稱用ス然レ迄今ノ醫ハ酒石酸ニ

代ルニ無害ノ純精酒石ヲ以テス

酒石酸ニ炭酸曹達ヲ配用ノ良驗アリ所謂沸騰

散是ナリ炭酸ノ條
ニ出ス

服量 每服十ルヨリ二十ルニ至ル散劑若ハ溶劑

トス

又之ヲ里没奈埵散トシ日常飲料ニ供スル者アリ

○里没奈埵散方

酒石酸 一分

砂糖 四分

枸橼皮油 二三滴

右研和ス

○純精酒石

「クレモルタルタリ、デピユラチュム」
「ウエインステーションローム」

主治 膽液過溢。急性皮疹後ノ水腫及ヒ急性熱病ヲ治ス日、ニ半錢ヨリ一錢半ヲ用フ又痔疾ニ効

アリ沈降硫黄ニ配用ス但胃弱ノ者下利ヲ兼ル症。哺乳兒等ニハ之ヲ用フベカラス

○痔疾ヲ治ス

純精酒石 半ヲ

沈降硫黄

茴香油糖 各二錢

右研和シ臨卧ニ一二茶匙ヲ用フ

○透晶水

「アクアキリストルリナ」

純精酒石

砂糖 各一ヲ

右水三北若ハ四北ヲ加ヘ煮ルヲ少時ニノ濾過シ每服半小碗ヨリ一小碗ニ至ル

主治諸熱病ヲ治ス清涼甘美ノ飲料ナリ

亞格尼室涅アコニチニユム

近來始メテ雙鸞菊ヨリ製スル所ノ大毒劑ナリ

之ヲ發明スル人ヲ或ハ伯失爾バシール名トシ或ハ把爾

刺斯アス名トシ或ハ蒲蘭埵斯プランドス名トシ或ハ歇斯アス設アス名

トス龍動局方リキウキョウ一十八百三十七年ノ刻ニ之ヲ亞格尼室奈ト

名ク醫藥ニ供スルヲ載ス

去倫蒲里アレンブル名製法

雙鸞菊根ニ新採者細赤一分亞爾箇兒アルカニ強烈者二分

右硝子壘ニ入レ煖處ニ浸ス一七日ニメ濾過シ

渣ヲ去リ文火ニ上セ徐々ニ水氣ヲ蒸散ノ越幾

斯ノ稠ニ至リ礪砂加石灰精ヲ徐々ニ滴加シ全

ク礪砂精ノ香氣トナルヲ度トス而メ尚純粹ノ

重格尼室涅ニ非ズ越幾斯分ト水ニ溶解スベキ

質ノ物混交セリ故ニ再ヒ亞爾箇兒若ハ亞的兒

者煮沸ヲ加ヘ亞格尼室涅ヲ浸出シ取ルベシ或ハ

少量ノ水ヲ加ヘ溶解スベキ質ノ物ヲ除去スル

モ亦宜シ

整爾的摸篤アイルトク名及ヒ傑乙厄爾アイル名ノ法ニ從テ製

スル者アリ 其製法烏尼弗爾撒里 最純粹硬白ニ
 メ破碎シ易ク透亮ニノ光輝アリ少モ香氣ナク
 之ヲ口ニ入ル寸ハ初メ嫌惡スベキ苦味ヲ覺ヘ
 後咽喉ニ酷厲氣ヲ殘ス然レ毫モ侵刺セズ又燒
 ガ如キヲ覺フルナシ

亜爾箇兒及ヒ亜的兒ニ溶解シ易シ此溶劑ニ沃
 實謨丁幾ヲ加フレバ褐赤色ノ塗ヲ生シ没食子
 丁幾ヲ加フレバ白色ノ塗ヲ生ス

〔主治〕毒氣甚々猛烈ナリ曾テ雀ニ五十分ハノ一
 ヲ試用シ一二密扭篤間ニ死スルヲ見ル里乙計

人ノ書ニ曰ク今日マデ之ヲ試験スル者ハ唯羅
 都名入チユ倫蒲爾名入ス計乙名入三人ノミ之ヲ痛風
 痺麻質痛。面痛。其他諸神經痛ニ稱用スト

〔外用〕之ヲ燒酒ニ溶解シ或ハ軟膏ニ和シ患部ニ
 塗擦スレバ其部ニ一種ノ温煖刺衝ヲ覺フル
 殆ンド歇刺篤里涅二出ス 二同シ但亞格尼室
 涅ハ塗擦スル後一時ヨリ六時間ハ其部ニ困重
 及ヒ筋ノ牽縮ヲ殘スヲ以テ異ナリトス

〔服量用法〕去倫蒲爾名入ノ法左ノ如シ

○丸劑

亞格尼室涅アグニシムニ 一丸

甘草末 十六丸

舍利別 適宜

右研和シ十六丸トシ一時半毎ニ一丸ヲ用フ

○溶劑

亞格尼室涅アグニシムニ 九丸

銳烈燒酒 二三

右溶解メ塗擦ス

○軟膏

亞格尼室涅 十八丸

阿利襪油 三十六滴

家猪脂 一

右研和シ患部ニ塗擦スル一日ニ二三

雙鸞菊

アコニチユム
コニクスカフ

味辛辣ニメ麻酔毒アリ又亞格尼室涅ヲ有ス此新葉ヲ採リ越幾斯ヲ製シ一丸ヨリ二丸ヲ用フ此越幾斯根煎汁葉浸劑俱ニ多服スレバ眩暈昏冒冷汗震盪眼昏麻痺等ヲ發ス

消毒法 微温湯及ヒ油ヲ多量ニ用ヒテ吐ヲ催起

スベシ而メ尚吐セス麻酔甚キ者ハ皓礬ヲ用ヒテ吐セシムルヲ宜シトス若シ昏冒スル者ハ強烈コツヒコツヒヲ用ヒ且醋ヲ以テ面ヲ洗フベシ但

嚙下ヲ得ザル者ハ胃唧筒ヲ以テ之ヲ排除ス若シ此器ナキ寸ハ吐酒石ヲ水ニ溶化シ静脈ニ注入シ吐ヲ起スニ至ル

主治 痺麻質痛。痛風ニ關節腫痛ヲ兼子且其部已ニ羸瘦スル者ニ必用ノ藥ナリ但病者多血ニメ面貌盈赤且熱ヲ兼ル者ニハ之ヲ用フベカラス又膀胱痛。面痛。骨腫。骨痛。瘰癧。痛風。蠱毒ニ由ル者經久乳房硬結。慢性肺聖京屈。四肢麻痺ヲ治ス。撒屈斯名ハ白帶下善性症ニモ惡性症ニモ俱ニ之ヲ稱用ス雙鸞菊ハ最良發汗劑タル一論ヲ俟ス亦有力利

尿劑ナリ是レ福鳥鳩伊兒名ハ始テ之ヲ試用シ其後諸家ノ經驗スル所ナリ實爾拔屈名ハノ說ニ此利尿ノ効ハ實艾答利斯ト杜松實トノ間ニ在リト云

服量用法 藥用ニ供スル者ハ唯此越幾斯ノミ初ハ每服一二分日ニ三次而メ三日毎ニ一分ヲ増シ終ニ八分ヨリ十分ニ至ル若シ惡心眩暈ヲ發スル寸ハ其量半ヲ減スベシ

新製越幾斯ヲ蒸餾水ニ溶化シ用フレバ痛風。痺麻質痛。瘰癧ニ無ニノ良劑ナリ然ルニ涅鳥滿名ハ

ハ之ヲ無効ノ者ナリト云

余ハ雙鸞菊丁幾ヲ用止ス越幾斯ヲ左ノ如ク配用ス但シ諸焮衝焮衝熱腸胃汚物頭胸ニ血液鬱積スル等ノ症ニハ之ヲ禁ス

○痛風。痺麻質痛ヲ治ス

雙鸞菊越幾斯 一刃 安質沒尼酒 一弓

右溶化シ每服二十滴ヨリ三十滴四十滴ニ至ル日、二三次

○神經性痛風ヲ治ス

雙鸞菊越幾斯 一刃 舍利別 二錢

剥屈福烏篤丁幾 三錢 礪砂加石灰精 半錢

右調和シ每服十五滴ヨリ二十滴ニ至ル日、二三次大麥水一小碗ヲ以テ服ス

○急性慢性痺麻質痛ヲ治ス

雙鸞菊越幾斯 半刃若 格爾失屈護酒 半錢

右調和シ每服十五滴ヨリ二十滴ニ至ル日、二四次

○神經性痛風劇痛スル者ヲ治ス

雙鸞菊丁幾 亞的兒 丁香丁幾 各一錢

剥屈福烏篤揮發丁幾 三錢

右調和シ每服十五滴ヨリ二十滴ニ至ル朝夕二用フ

○夜發骨痛ヲ治ス

雙鸞菊越幾斯 六分 挖歇兒散 十二分

右蜂蜜ヲ以テ煉和シ六個ニ分チ一時毎ニ一個ヲ用フ

○虛性痛風ヲ治ス

雙鸞菊越幾斯 一錢 蜀羊泉越幾斯

亞兒尼加花越幾斯 刺屈福烏篤脂 各二錢

金硫黃 半錢 甘汞 十五分

右研和二分ノ丸トシ泥菖朮ヲ衣トシ每服五丸ヨリ八丸ニ至ル日ニ三次

○痛風ニ小腹墜塞ヲ兼子劇キ痙攣狀ノ症ヲ發スル者ヲ治ス

安質没尼 二錢 阿魏 一錢

雙鸞菊越幾斯 十五分 珊篤里越幾斯 適宜

右研和二分ノ丸トシ橙皮末ヲ衣トシ每服八丸日ニ三次

穆氏藥論卷之三 終

...

穆氏藥論

榴園江馬先生譯、
初篇三冊刻成二編三編嗣刻

此書ノ原本ハ西洋ノ名醫穆斯篤氏ノ著ス所ナリ諸藥ノ主治効能ヨリ
服量用法ニ至ルマテ詳ニ記シ且古今諸名家經驗ノ良方ヲ記載シ精密
遺漏ナシ凡ノ濟世ニ從事スル徒此書ヲ熟讀セハ諸藥用法意ノ如ク處自
在ナルヘシ實ニ須臾モ座右ニ缺ヘカラザル珍書也

重訂解體新書

磐水大槻先生譯

全十三冊

同 銅版之圖

折本

全壹帖

重訂內科撰要

槐園宇田先生譯

全十八冊

全體新論

荖醫合信氏譯

全二冊

內科新說

全

全三冊

婦嬰新說

全

全二冊

眼科新說

高松越智先生譯

初篇三冊刻成

眼科真筌

天江江馬先生譯

全二冊

青囊探珠

全

全三冊

西洋學家譯述目錄

穗亭主人輯

橫本

全一冊

延享年間ヨリ當今ニ至ルマテ西洋學ニ名アル人ノ著述ヲ收載シイ
口ハ四十七音ヘ其作者ノ姓氏ヲ排列シテ檢査ニ便ナラシメ諸家ノ珍卷
奇丹深秘寫本ニ至ルマテ探索シテ其書目ヲ載ス且洋學ニ志シ玉フ君
子必一本ヲ架上ニ貯ヘ一過讀シ玉ハ更医家而已ナラス軍學炮術家
ノ一助ト成ベシ

江馬權介譯述

慶應三丁卯年五月刻成

京都寺通松原下

勝村治右衛門

江戸淺艸第町貳丁目

須原屋伊八

同日本橋通貳丁目

山城屋佐兵衛

發行書肆

